

今日も皆さん「歌声喫茶」で一緒にどうぞ！

# それは食堂の歌声から始まった

歌といえばカラオケが主流になり、一人専用のカラオケ店もあるほど。しかし、歌には、みんなで一緒に歌って楽しむという醍醐味もある。東京・新宿で六十四年目になる、みんなで歌う空間を維持している歌声喫茶「ともしび」。店長の斉藤隆さんに、歌声喫茶の歩みと楽しみ方を聞いた。

「うたごえ喫茶ともしび 新宿店」店長

## 斉藤 隆

●さいとう・たかし 1960年生まれ。20歳のときに「ともしび」と出会い、23歳で従業員となる。以来、歌声喫茶のピアノ伴奏を担当。2011年以降、店長。

### 自然発生的に誕生

——歌声喫茶とカラオケの違いとは何でしょうか？

カラオケは、基本的には一人でマイクを持って歌う楽しみですね。しかし歌声喫茶は生演奏を伴奏とし、その場にいる全員で声を合わせて歌う。それが大きな違いといえます。

みんなで歌うことで、その歌が持つ世界に共感したり、ある時代を懐かしんだり、歌う場を共有する雰囲気があるのではないかと思います。

歌声喫茶は、聴きたい曲、歌いたい曲をリクエストカードに書いて従業員に渡します。ステージには、リーダーと呼ばれる司会者と伴奏者がいて、リーダーがリクエストカードから選曲し、曲順や構成を考えて、

歌の合間に曲の説明や楽しいおしゃべりをしながらお客さんと一緒に歌っていく。

リクエストは何曲出しても構いませんが、ステージの時間には限りがありますし、すべてのリクエストが反映されるわけではありません。リーダーは、なるべく多くのお客さんの要望をつかみながらステージの流れをつくらなければならぬから、

なかなか大変です。歌詞はレンタルの歌集がありますから、それを見ながら歌いますし、無理に歌わなければならぬわけでもありません。

——歌集は二冊ありますね。一冊は古い曲が中心、もう一冊の歌集は最近の歌が中心です。スピッツの曲もあります。

緑の表紙「うたの世界533」は、

これまでの「ともしび」で多く歌われてきた曲を中心とまとめてあります。さまざまな国の民謡から歌謡曲、童謡、唱歌など幅広いジャンルの歌詞五三三曲を収めています。赤い表紙の「うたの世界 第2集 209」は、一九八〇年代以降の曲を多く掲載しています。最近の曲で人気が高いのは、『芭蕉布』（夏川りみ）や『糸』（中島みゆき）などでしょうか。ほかにも入っていますが、「なじみやすい」「親しみやすい」「歌いやすい」曲が多いですね。

——六〇年代終わりごろに使われていた歌集もあるんですね。いまの歌集は新書ぐらいのサイズですが、手のひらサイズで五巻ある。

アコーディオンの伴奏に合わせてルバシカ（ロシア風のシャツ）を着た男性が客席に向かって歌っている絵の表紙が特徴的です。

もともと「ともしび」の前身は、戦後に食堂として新宿の西武新宿駅前誕生しました。一九五四年に、その店でたまたまロシア民謡をBGMとして流していて、それを聞いた若いお客さんが歌い出して、いつの間にかみんなで歌うようになった。自然発生的に生まれたものです。

——歌声喫茶と聞くと「カチューシャ」や『トイイカ』など哀愁のあるロシア民謡という印象がありますが、はやっていったんでしょうか。

戦地から戻ってきた人々がいたの



現在の店内の様子。週末の昼は大勢のお客でにぎわう



現在の歌集（奥）と昭和40年代の歌集（手前）

うたごえ喫茶ともしび 新宿店

所在地：東京都新宿区新宿3-20-6 FSビル6階

営業時間：月・火曜 17:00～22:30、水～土曜 16:00～22:30、日・祝日 16:00～21:30 ※水～土曜は昼間も営業 13:30～15:50

席数：70席

電話：03-3341-0915

ウェブサイト：<http://www.tomoshibi.co.jp>